

25年7月研修会

「佐紀盾列古墳群と松林苑跡を訪ねる」

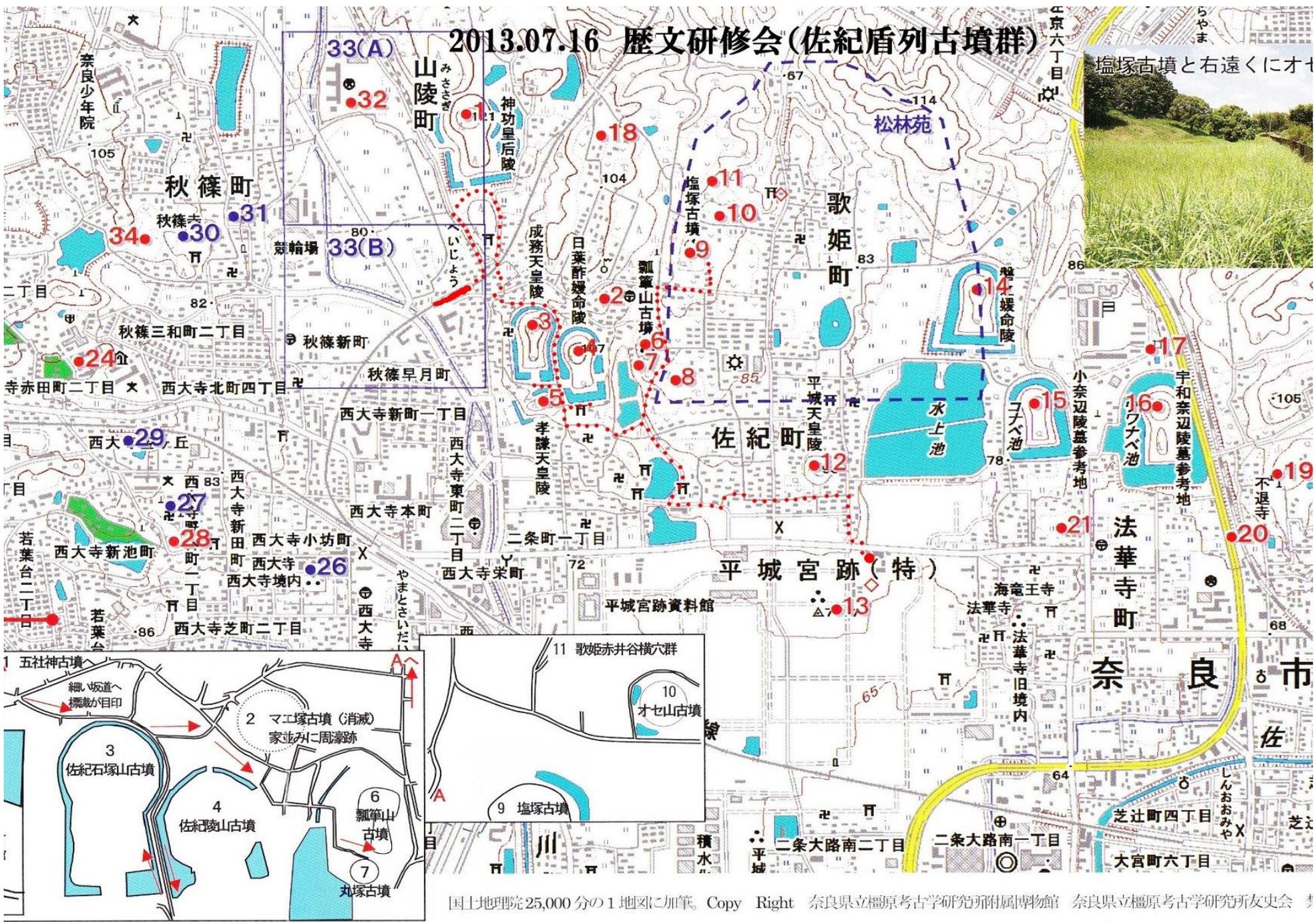
資 料

奈良・人と自然の会

歴史文化クラブ

(7月16日)

2013.07.16 歴文研修会(佐紀盾列古墳群)



塩塚古墳と右遠くにオサキ

国土地理院 25,000 分の 1 地図に加工。Copy Right 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 奈良県立橿原考古学研究所友史会

佐紀盾列(たたなみ)古墳群と松林苑・超昇寺跡

注 古墳の通称に続く、太字は奈良県遺跡地図の名称、() は宮内庁治定名称

- ① 神功皇后陵 ごさし **五社神古墳** (仲哀天皇皇后神功皇后狭城盾列池上陵) 前期後半 (4 世紀後半)、丘陵の途中を断ち切って築造された 3 段築成の前方後円墳、墳丘全長 275m、後円部径 195m・高さ 26m、前方部幅 155m・高さ 19m。埴輪を伴い、鍵穴形の周濠をめぐらす。佐紀古墳群中、最大最古。後円部北西側に 3 基の陪冢あり。
- ② 成務天皇陵 **佐紀石塚山古墳** (成務天皇狭城盾列池後陵) 前期後半、3 段築成の前方後円墳、墳丘全長 204m、後円部径 132m・高さ 23m、前方部幅 111m・高さ 16m。埴輪と葺石を伴い、狭い鍵穴形の周濠をめぐらす。後円部北側の 3 基の方墳があり、陪冢に指定されている。
- ③ ひばすひめのみこと **日葉酢媛命陵** みささぎやま **佐紀陵山古墳** (垂仁天皇皇后日葉酢媛命狭木之寺間陵) 前期後半、3 段築成の前方後円墳、墳丘全長 203m、後円部径 127m・高さ 21.3m、前方部幅 87m・高さ 12.3m。埴輪・葺石を伴い、盾形の周濠をめぐらす。
- ④ 称徳天皇陵 **佐紀高塚古墳** (称徳天皇高野陵) 前方後円墳、墳丘全長 127m、後円部径 84m・高さ 18m、前方部幅 70m・高さ 13m。埴輪を伴い、周濠をめぐらす。
- ⑤ **瓢箪山古墳** 国史跡、前期後半、前方後円墳、墳丘全長 96m、後円部径 60m・高さ 10m、前方部幅 45m・高さ 7m。史跡公園として復元・整備されている。盾形の周濠は、前方部南西側に大型円墳、丸塚古墳 (前期後半) が先に築造されていたため、その部分だけが途切れている。
- ⑥ **塩塚古墳** 国史跡、中期前半 (5 世紀前半)、前方後円墳、墳丘全長 105m、後円部径 70m・高さ 9m、前方部幅 55m・高さ現存 2m。粘土槨が検出された後円部に比べて前方部はかなり低く、盾形の周濠も前方部は残っていない。これは松林苑に取り込まれて改変されたためと考えられ、前方部から奈良時代の瓦が大量に出土している。
- ⑦ **松林苑** 平城宮の北に設けられた庭園。天平元年 (729) 3 月 3 日から同 17 年 5 月 18 日まで、続日本紀に松林苑・松林宮・松林・北松林・松林倉廩として、6 回みえる。曲水の宴や端午の節会の大射 (騎射) などの行事が催された。松林苑の規模は現状の地形と築地痕跡から、南北 1000m 以上、東西 500m 以上の南北に長い不整形の区画で、その内部中央に南北 220m、東西 200m ほどの方形の内郭があると推定されている。発掘調査は西面外郭と南面外郭の築地で部分的になされ、基底幅 2.4m で瓦葺であったこと、築地の外側に幅 90cm の犬走りがあったことが判明している。
- ⑧ **超昇寺跡** 平城天皇の子で、嵯峨天皇の皇太子高丘親王が、弘仁元年 (810) 薬子の変のため、廃太子となり、出家して真如となるが、その真如が本願の寺。『三代実録』には、貞観 2 年 (860) 10 月 15 日条に、平城京中の水田 55 町 4 反 288 歩を不退・超昇両寺に施捨するとあって、この時までには創建されていたことがわかる。『三会定一記』の貞観 4 年講師興照の条に、「今年七十、超昇寺本願親王入唐、高丘親王事也」とある。さらに同 7 年には、詔を以て、権僧正法印大和尚耆演が超昇寺座主となっているので (『三代実録』)、

寺格は高かったが、長祿3年(1459)に塔坊自焼、天正6年(1578)井戸若狭守の超昇寺城攻めの際、寺も類焼した。徳川綱吉の時、超昇寺郷二条村出身の江戸護持院大僧正隆光(1649-1724)の力により、寺地を附近の小字亀畑に移して復興をみたが、明治10年頃廃絶した。

- ⑨ **佐紀神社** 御前池の東と西に鎮座する。西側は小字西畑に所在。祭神は天兒屋根命・経津主命・六御県命の三座。由緒は不詳であるが、東の佐紀神社よりの分神という。鳥居前に「式内佐紀神社」の石標がある。例祭は10月10日。東側は小字亀畑に鎮座。二条町の鎮守。祭神・例祭は西に同じ。社伝によると天武天皇2年(673)に鎮祀し、超昇寺の建立と同時に鎮守神として尊崇され、貞観元年(859)には社殿を改修、寛平3年(891)に官社に列し、超昇寺が別当寺とされたが、治承4年(1180)の兵火で焼失、文治6年(1190)に再建、天正6年(1578)再度兵火により焼失したという。境内の末社市杵姫神社・大国主神社は、超昇寺僧の鎮護神で、同寺廃絶後、明治頃に当社内に移されたい。
- ⑩ 平城天皇陵 **市庭古墳** (平城天皇楊梅陵) 現状は周濠・前方部が消滅した径105m・高さ13mの円墳となっているが、発掘調査によって、平城宮造営に伴い破壊された前方部の痕跡が発見され、中期前半、5世紀前半の復原墳丘全長253mの前方後円墳であることが判明した。平城宮内裏北方官衙地区で検出された前方部南側周濠が石敷きで表示されている。
- ⑪ **葛木神社** 祭神は一言主命。拝殿の由緒書には金剛山頂葛木神社の葛城宮司が磐之媛が葛城氏を偲んで一言主命を祀られたのではないかと記す。本殿の右に巖島神社があり、市杵島姫命を祭神とする。享保9年(1724)の「三ヶ村氏神明細帳」には、常福寺村の神社として、「一、一言主社 四尺四寸/六尺四寸 檜皮葺 一、弁財天社 三尺/三尺八寸」境内494坪などの記載があり、また神社の「年中行事控帳」には、7月11日に李播祭(すももまきまつり)が行われたという(『奈良市史 社寺編』1985年、奈良市発行、土井実氏執筆)。
- ⑫ 磐之媛命陵 **ヒシャゲ古墳** (仁徳天皇皇后磐之媛命奈良坂上陵) 中期後半(5世紀後半)、前方後円墳、墳丘全長220m、後円部径130m・高さ15m、前方部幅150m・高さ13m。墳丘くびれ部東側に造り出しをもつ。盾形の周濠は、今は前方部のみ2重となっているが、当初はすべて2重にめぐっていた。後円部北東側に、発掘調査で検出された周堤・外濠と、円筒埴輪列・葺石の一部を復元した遺跡公園がある。北～東には4基の陪冢が現存する。
- ⑬ **コナベ古墳** (小奈辺陵墓参考地) 中期前半、3段築成の前方後円墳、墳丘全長210m、後円部径130m・高さ21m、前方部幅135m・高さ19m。盾形の周濠と周堤がめぐり、周堤には多数の円筒埴輪が立て並べられていた。くびれ部両側に造り出しをもつ整った墳丘は、明治時代初期に大阪の造幣局の技師として招かれたイギリス人ゴードンの実測図によって、海外に紹介された。この古墳の西側から北東側にかけては、10基の陪冢が規則正しく並んでいる。
- ⑭ **ウワナベ古墳** (宇和奈辺陵墓参考地) 中期中葉(5世紀中頃)、3段築成の前方後円墳、墳丘全長260m、後円部径130m・高さ20m、前方部幅135m・高さ20m。くびれ部西側に造りだしをもち、盾形の周濠はもと2重にめぐっていた。東側の国道24号線は、古墳の周堤・外濠上を通過しており、古墳保存上に問題を残した。また、ウワナベ古墳の北側とヒシアゲ古墳の東側(航空自衛隊構内)には、陪冢らしい多くの古墳が存在したが、戦後まもなく進駐軍の基地造成によって、ほとんど破壊されてしまった。その中には、遺体埋葬の痕跡がなく、鉄挺872点など1500点以上にもおよぶ大量の鉄製品が出土した径30mの円墳、大和6号墳(宇和奈辺陵墓参考地陪冢6号墳)もあった。

古墳について

佐紀古墳に関連して、古墳について調べました。

平成25年6月 坂東久平 記

1. 古墳の変遷

古墳は、単なるお墓ではありません。時の権力者の権威の象徴であり、後継者が正当性を主張する場であったと考えられています。

弥生時代（紀元前5世紀～紀元3世紀）（近畿では紀元前3世紀～紀元3世紀）に、ムラが発生しそれが統合、巨大化して行きます。初期に方形周溝墓、方形台状墓、円形周溝墓が出現し、後期には円形台状墓に変化します。

楯築遺跡（たてつきいせき：岡山県倉敷市）は2世紀後半～3世紀前半に造られた双方中円墳（全長7.2m）で、円筒埴輪の原型となる特殊壺、特殊器台が出土しました。

この時期に各地でその地域を統率する首長（豪族）が首長専用の大きな墳墓を造ります。

四隅突出型弥生墳丘墓、円墳、方墳などが出現し、次第に大型化して前方後方形周溝墓、纏向型前方後円墳を経て、2世紀末に最初の前方後円墳：箸墓古墳（278m）が誕生します。

この時期には、円墳、帆立貝形前方後円墳なども造られますが、身分の格差に応じて古墳の形や大きさ、埴輪の種類などが異なります。別紙の「古墳編年」（白石太一郎：2013年6月補訂）はこのような要素を加味して作成されています。

大型の前方後円墳は大王クラスの人だけに許されたもので、3世紀の箸墓古墳に始まり、6世紀の五条野丸山古墳（欽明天皇陵：宮内庁は梅山古墳）を最後とし、これ以降は方墳や八角墳に変わり、8世紀の奈良時代には円丘（聖武天皇陵など）になってしまいます。

2. 佐紀古墳群に女性が多いのは何故？

佐紀古墳群にある大型古墳8基の内、5基は女性の墓と見られている。大王クラスの古墳は5世紀になると、河内や和泉に移りヤマトには殆どありません。これには諸説がありますが、ヤマト王権は近畿地区の有力豪族に支えられた首長連合体制と考えられており、リーダーが奈良南部から大阪南部へ、更に三島へ、また奈良へと変わり、大王の墳墓はリーダーの支配地に造られますが、**後の墳墓は実家の支配地に造られたと考えられています。**

（古い順に）詳細は岩本先生の資料をご覧ください。

佐紀陵山古墳③（日葉酢媛命陵：203m）

父は丹波道主王命、**息長氏の血縁**で佐紀に領地を有したものと考えられる
宝来山古墳（垂仁陵：227m）

佐紀石塚山古墳②（成務天皇陵：204m）

五社神古墳①（神功皇后陵：275m）息長帯比売命で**息長氏の血縁**

コナベ古墳⑬（210m）前妻の墓か？（こなみは先妻との説）

市庭古墳（平城陵：253m）平成天皇は9世紀の人

ウワナベ古墳⑭（260m）後妻の墓か？（うわなりは後妻との説）

ヒシアゲ古墳⑫（仁徳天皇皇后磐之媛命陵：220m）**葛城襲津彦の娘**

（八角墳）

段ノ塚古墳（舒明天皇陵）、山田上ノ山古墳（孝徳天皇陵）、

牽牛子塚古墳&岩屋山古墳（齊明天皇陵と推定）、御廟野古墳（天智天皇陵）、

野口王墓（天武・持統陵）、東明神古墳（草壁皇子と推定）、中尾山古墳（文武天皇陵と推定）

以上